

SPH NEWS LETTER

静岡社会健康医学大学院大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH



本学について

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本学は、2021年に開学した社会健康医学を学べる大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー（聴覚言語学）について学ぶことが可能で、県内の医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。



地域連携TOPICS

プレコンセプションケアの普及を推進しています 県と連携し性や妊娠の正しい知識を若い世代へ広く伝える活動を展開

静岡県が推進するプレコンセプションケア（将来の妊娠や出産に備えて、男女が若いうちから健康を整える取組）の普及において、本学の溝田友里准教授が中心となり、若い世代への健康教育に取り組んでいます。本学の教育研究の成果を社会へ還元する活動の一環として、静岡県内の専門学校や大学で、性や妊娠、将来の健康管理等に関する知識をわかりやすく伝える出前講座を実施しています。



溝田准教授らが制作に協力したプレコンセプションケアのわかりやすいリーフレットは、県のホームページからダウンロードできます。→



<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokosodate/boshihoken/1058176.html>

2026年1月6日に静岡市内の専門学校で行った出前講座では、約780人の学生が熱心に耳を傾け、その様子はNHK静岡や静岡新聞でも報道されました。

講座では、妊娠前からの生活習慣が将来の妊娠や胎児の健康に影響することを研究に基づき解説。過度なダイエットや肥満の影響、適正体重の重要性、不妊には男性要因も多いことや加齢による妊娠リスクなども紹介し、バランスの良い食事や運動など日常生活で実践できる健康づくりのポイントを示しました。

高齢者向けの介護予防や健康づくりについての発信も積極的に行っており、静岡市提供のSBSテレビ「しぞ〜か★みんなの健康体操〜元気のヒケツとは?〜」（2025年11月3日～2026年2月16日、毎週月曜10:50～11:05、SBS公式YouTubeチャンネルでも視聴可）にも出演中です。 SBS公式YouTubeチャンネル→



学内NEWS

令和7年度「学位記授与式」を挙行いたします

2026年3月28日(土)に、令和7年度学位記授与式を挙行します。今年度、本学では公衆衛生や社会健康分野で専門性を磨いた大学院生21人が卒業し、うち3人は、本学で初となる博士課程の修了生でした。

来年度は、新たに24人(修士課程19人、博士課程5人)の入学を予定しており、多様な背景を持つ人材が集うことで、教育研究の発展と地域社会への貢献の広がりが見込まれます。

修了生紹介



修士課程 2024年度修了

岡利津子さん

〈研究内容〉
定期的な歯科受診に関する因子の探索

現場の迷いから、静岡SPHでの学び直しを決意

裾野市役所健康福祉部長 兼 福祉事務所長として行政の第一線に立つ岡利津子さん。制度や施策を担う立場だからこそ感じていた迷いをきっかけに、静岡SPHでの学び直しを選びました。仕事と両立しながら学び、修了後はその成果を現場や後進の育成に生かしています。

岡さんに聞いてみました!

Q.入学を決めたきっかけは?

A. 行政の現場で経験を重ねていく中で、受診率が低迷している成人歯周疾患検診の現状に課題を感じ、施策を“感覚”ではなく根拠をもって取り組みたいという思いが強くなりました。そこで静岡SPHへの入学を職場に相談したところ、柔軟な対応もあり、入学を決意しました。

Q.大学で印象に残っていることは?

A. クラスには自分以上に忙しい立場の仲間がたくさんいて、それぞれが仕事や家庭を抱えながら学び続けている

姿に、何度も励まされました。また、第一線で活躍し、参考文献として読んでいた本の著者の先生たちが実際に授業をしてくださるなど、信じられないような経験ばかりでした。

Q.仕事と学びの両立は難しかった?

A. 正直に言えば、楽ではありませんでした。ただ、同じ時期に他の大学院に通っていた娘と参考文献を共有し、研究の話をするなど、思いがけない喜びもありました。忙しい日々の中でも、学びを通して家族との会話が生まれたことは、うれしい収穫でした。

Q.大学での学びは職場でどう生きていますか?

A. 職場の後輩と仕事を進める際に、「なぜそう考えるのか」「データでどのように示せるか」を一緒に確認するようになりました。これまでは経験や“肌感覚”で語ることもありましたが、現在は数値を示しながら考えることを意識しています。根拠を大切にすることは、講義の中で身につきました。計画策定においてもデータの見方が整理され、実務に役立っています。学び直しは、次の世代を育てる力として現場で生かされています。

お知らせ

2025年12月 本学と静岡理工科大学による「県民公開講座」を開催 ～医工連携を軸に地域課題の解決へ 静岡SPHの社会貢献を発信～

2025年12月14日(日)、静岡音楽館AOI7階講堂において、本学と静岡理工科大学の共同による県民公開講座を開催しました。

本講座は、県民の健康づくりや生活の質の向上に資する知見を社会に還元することを目的に企画したものであり、本学が推進する地域連携・社会貢献活動の一環として実施しました。

講演後に実施した座談会では、県民の皆さまと登壇者との間で活発な意見交換が行われ、日常生活における健康への関心や地域医療への期待など、多様な視点から議論が交わされました。

今後も、行政・教育機関・地域社会との連携を強化しながら、科学的根拠に基づく健康政策の推進および地域の健康寿命延伸に寄与する取り組みを進めてまいります。



左から) 本学 宮地学長、田原教授、藤本准教授、静岡理工科大学 渡邊教授、富田教授、小澤副学長



ご意見募集中

本ニュースレターに関するご意見・ご要望などお聞かせください。



本学の研究成果を市町施策へとつなぎ、地域の健康づくりに生かしています

本学では、静岡県内の健康課題の解決に向け、調査研究の成果を県や市町の施策へつなげる取組を進めています。地域の実情に即した健康づくり施策の立案や事業改善に役立てていただけるよう、調査や分析に加え、施策の検討や実践までを県や市町と連携しながら支援しています。ここでは、県や市町と連携して進めている代表的な3つの研究の取組を紹介します。

健診だけでなく、市町の健康まつり等、さまざまな機会において住民の健康づくりに貢献しています。

2025年9月28日東伊豆町健康まつりで「骨密度測定ブース」を出展しました!



健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング

【研究代表者】山本精一郎 教授

【概要】健康寿命延伸を目指し、市町ごとに異なる健康課題と食習慣・生活習慣の関係を継続的に調査しています。食と生活習慣チェックの結果を、県内の医療ビッグデータから得られた地域別の疾病動向と比較分析することで、地域特性に応じた健康課題を可視化しています。これにより、市町が健康施策を検討・展開する際の科学的根拠となる基礎資料を提供しています。



毎年チェック! 食と生活習慣

- ・栄養素摂取量をフィードバックし、食事を見直すきっかけに
- ・市町の保健事業担当者を対象としたデータ活用研修
- ・企業の健康経営を支援



市町への主な還元・貢献

- ・県や市町の職員を対象に食と生活習慣チェックのデータを活用し、**既存事業の見直しや課題解決のためのより効果的な施策の企画・立案などを学ぶ研修会**を2回実施し、全7所の県健康福祉センター、23市町等から延べ79名が参加しました。
- ・伊豆の国市では、得られたデータを住民向けの健康教育に取り入れるほか、高血圧対策の減塩の指標に設定し、**減塩普及啓発のリーフレット**等に掲載しました。
- ・沼津市では、調査で得られる野菜の摂取量を**次期食育推進計画の評価指標**に取り入れています。



静岡多目的コホート研究事業

【研究代表者】田原康玄 教授

【概要】県内各地域の住民を対象に健康調査を行い、疾病の原因解明と予防法の開発を目指す研究です。調査結果と医療情報を組み合わせて分析し、地域の健康課題に応じた予防施策の開発と社会実装を進めています。



かもけん!健診: 賀茂地域で実施した健康調査
ふくけん!健診: 袋井市で実施した健康調査
しまけん!健診: 島田市で実施した健康調査

市町への主な還元・貢献

- ・かもけん!健診、ふくけん!健診で実施した頭部MRIで、**要精密検査対象者97名**が見つかりました。脳卒中を予防したことで**年間1億9400万円の医療費削減効果**が見込まれます。
- ・ふくけん!健診では、市が把握している健康課題である糖尿病に加え、**高血圧の割合が高い**ことが明らかとなりました。高血圧対策には減塩が必須です。家庭の調味料を減塩タイプに置き換えることで、無理なく血圧を下げることができるのか、**大社会実験"しおがえ大作戦"**に袋井市とともに取り組んでいます。

- ・しまけん!健診受診者のうち、**約15%はこれまで市の健診を受けていなかった方**でした。疾病リスクが高い健診無関心層からの受診者掘り起こしを通じて、**島田市の疾病予防と特定健診受診率の向上**に貢献しました。
- ・住民特性に応じた**サルコペニア予防プログラム**(かもけん!体操、ふくけん!体操)を考案しました。しまけん!体操も鋭意作成中です。島田市では、来年度から筋肉マシマシ活動もスタートします。



かもけん体操 　ふくけん体操 ~足関節編~ 　ふくけん体操 ~膝関節編~ 　ふくけん体操 ~股関節編~

DVDを受診者や市内の通いの場等で約2,700枚配布するほか、インターネットやケーブルテレビで配信し、地域での健康づくり活動に活用しています。

特定健診・がん検診受診率向上および生活習慣病予防のための研究

【研究代表者】溝田友里 准教授

【概要】ナッジ理論やソーシャルマーケティングなど行動科学の知見を活用し、市町のニーズに応じた特定健診・がん検診の受診勧奨資材や、野菜摂取量増加や身体活動量増加等の生活習慣改善資材の開発とコンサルテーションを実施しています。自治体の保健事業を支援し、受診行動の促進につなげています。

市町への主な還元・貢献

- ① NHK「あしたが変わるトリセツショー」と連携したがん検診受診プロジェクトを実施
 - ・静岡県では24市町(令和6年度)が参加し、放送と連動した受診勧奨通知の再送付を実施した市町では、住民から多くの反響がありました。
 - ・富士市では、大腸がん検診の受診者が**約1,061名増加**、その中から**13名の早期発見**につながりました。
 - ・受診者の増加により、R6年度実績から早期発見につながった方は**5名増加**し、**3年間で約3,074万円(1人あたり3年間で615万円)の医療費削減効果**が見込まれます。

(Utsumi T, et al. J Gastroenterol.2021;56(10):903-13)

② 市町への個別支援を実施

- ・令和5年度より、特定検診や特定保健指導、がん検診等の受診勧奨資材及び実施体制について、それぞれの市町の課題に応じた助言を行っています。
- ・伊東市では、助言を資材に反映した結果、**受診券再発行依頼が令和6年度の約1.4倍**となりました。

〈令和7年度対象市町〉計11市町
伊東市、袋井市、下田市、函南町、静岡市、沼津市、島田市、富士市、磐田市、藤枝市、伊豆の国市

③ 県国民健康保険課と協働した意見交換会(令和8年2月2日)を実施

- ・②の市町への個別支援の内容を県や市町担当者と共有するとともに、意見交換を行い、県・市町の連携強化に貢献しました。

